



電力総連



©(公財) オイスカ
ヌエバビスカヤ植林プロジェクト



©(公社) 日本ユネスコ協会連盟
世界寺子屋運動
(ネパール・ルンビニ寺子屋プロジェクト)



©(特非) 日本国際ボランティアセンター (JVC)
ラオスの自然を村人と守る!



あなたの優しさで 世界中に笑顔と夢を!

2018
ふれあいカンパ
展開中!



©(公財) オイスカ
「子供の森」計画



©(特非) 国連 UNHCR 協会
難民の子供たちへの教育支援プロジェクト
(ウガンダの難民住居地内小学校で授業を受ける子供たち)



©(一社) 協力隊を育てる会
小さなハートプロジェクト
(ウガンダで活動中の吉原伸彦隊員と子ども達)



©(公財) 国際労働財団 (JILAF)
児童労働撲滅のためのネパール非正規学校プロジェクト



©(公財) ジョイセフ
ベトナム助産師支援



支援金の贈呈先、支援の内容など
詳しくはホームページをご覧ください。

電力総連ふれあいプロジェクト

検索



電力総連は8月から10月末までを
重点月間と位置づけ取り組んでいます



大きく育つあまのこころ

ふれあいカンパ

『ふれあいカンパ』から支援しているNGO団体

日本ユネスコ協会連盟

世界寺子屋運動(ネパール・ルンビニ寺子屋プロジェクト)

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟は、「UNESCO憲章」の理念を実践するために、第2次世界大戦後の1947年に設立された民間のNGOであり、字の読み書きのできない方々や学校に通うことのできない子どもたちへの教育支援として「世界寺子屋運動」を実施しています。

具体的な活動内容は、ネパールルンビニ周辺やカトマンズ近郊に、住民によって運営される教育機関(寺子屋)を設置し、未就学児童や成人女性などを対象とした教育支援を実施しています。ネパール語を学ぶだけでなく、公衆衛生や女性

の権利などについても学んでいます。あわせて、学校に通うことができない、または中途退学した子どもたち(特にカーストの低い「ダリット」、イスラム教徒および女子)を対象とした初等教育支援や幼稚園クラスも実施しています。2017年度には2,400人以上が寺子屋で学ぶことができました。

また、プロジェクトではネパール政府の要請に基づき、2015年4月の地震で被災した寺子屋の建物の再建を進め、これまでに3棟の寺子屋を再建しました。

オイスカ(OISCA)

「子供の森」計画／ヌエバビスカヤ植林プロジェクト

「子供の森」計画は、次代の主役である子どもたち参加による学校単位の森づくり運動です。子どもたち自身が学校の敷地や周辺地域に苗木を植えていく実践活動を通じて、「自然を愛する心」「緑を大切にしたい気持ち」を養いながら、地球緑化を進めることを目的としています。1991年に始まったこのプログラムには、2018年3月末現在36の国と地域5,080校が参加しています。2017年度に電力総連は、フィリピン北部ヌエバビスカヤ州の15校を中心に支援しました。

ヌエバビスカヤ州は1960年代から急速に進んだ森林伐採によりはげ山化が進んだ地域で、乾季には干害、雨季には土壌流失を引き起こし、麓で農業を営む地域住民の生活を脅かしています。この状況を改善するため1993年にヌエバビスカヤ植林プロジェクトを立ち上げ、540ヘクタールを超える生物多様性豊かな森づくりに取り組んでいます。電力総連では、このプロジェクトを1995年から支援しており、金銭面の支援だけでなく、組合員を派遣して地元の方々と一緒に植林活動を行うことで、自立意識の高揚等にも寄与しています。

国際労働財団(JILAF)

児童労働撲滅のためのネパール非正規学校プロジェクト

公益財団法人国際労働財団(JILAF)は、開発途上国における自由で民主的な労働運動の発展を促進するため、1989年に連合によって設立されたNGOです。1996年より、社会開発活動の一環として、ネパールにおける非正規学校プロジェクトを展開してきました。本プロジェクトは、現地のナショナルセンターであるネパール労働組合会議(NTUC)と協働で、親が貧困等で児童労働に従事せざるを得ない子どもたちを対象に、3年間の基礎教育(無償)を提供しています。

児童労働の主な原因には、貧困に加え、教育の重要性に対する親の理解不足もあります。本プロジェクトではNTUCおよび学校関係者により、児童労働従事

者の親や地域の人々に対して教育の重要性を訴える啓発活動も実施していることから、近年非正規学校への入学希望者は増加しています。

現在ネパール国内に9校の非正規学校があり、450名の子どもたちが通学しています。3年間の学習終了後に、公立学校へ編入することを目標としており、これまでの学校卒業生約8,000名のうち8割以上が公立学校へ編入し、中には大学へ進学した生徒や、JILAF非正規学校の教師となった卒業生もいます。

電力総連は2008年度より本プロジェクト財源の一部を支援しています。

ジョイセフ

ベトナムでの助産師教育支援

世界で毎日約830人(年間約30万人)の女性が妊娠や出産が原因で命を失う状況を改善するために、日本生まれの国際協力NGOジョイセフは、アジアやアフリカで保健サービスの向上や女性のエンパワメントにつながる活動を続けています。

ベトナムでは、国全体では母子保健の指標が改善されてきている一方で、都市

と農村・遠隔地の間で保健医療サービスの格差が拡大し続けています。ジョイセフは、農村・遠隔地の女性と妊産婦が質の良い保健医療サービスを受けることができるように、女性の生涯にわたる健康を守る上で大切な役割を担う村の助産師に技能研修を行います。助産師の能力強化を通じて、ベトナムの女性と母子の命と健康を守り、母子保健の向上に取り組んでいます。

協力隊を育てる会

小さなハートプロジェクト

青年海外協力隊は、約80ヶ国の開発途上国で現地の人々と共に暮らし、学校や病院、行政機関などに属して、技術指導を中心とした協力活動を行っています。

「小さなハートプロジェクト」は、協力活動以外で、隊員が現地の人々のために行う活動を支援するものです。本プロジェクトへのご支援は「いつでも、どこでも、

誰もが気軽に参加できる」国際協力です。一般社団法人協力隊を育てる会は、本プロジェクトなどを通じ、協力隊事業の理解促進や隊員支援を行っています。

電力総連は、1994年以降、学校校舎の補修、病院のトイレの設置、地域の共同井戸の設置など、64件のプロジェクトを支援してきました。

国連UNHCR協会

難民の子どもたちへの教育支援プロジェクト

国連UNHCR協会は、国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)の公式支援窓口として、広報・募金活動を行っています。UNHCRは1950年に設立された国連の難民支援機関で、1954年と1981年にノーベル平和賞を受賞。130か国で約11,000人の職員が人道援助活動を行っています。

電力総連は、UNHCRが世界12か国で実施する難民の子どもたち約100万

人を対象とする教育支援プロジェクトを支援しています。厳しい避難生活を送る子どもたちにとって、教育は生きる希望であり、将来自立した生活を送るためにも欠かせない重要な支援です。教室の増設や修繕、文房具や制服、教材の支給、教員の養成など、教育環境を改善するためのさまざまな事業に役立てられています。

日本国際ボランティアセンター(JVC)

ラオス農村の村人の暮らしを守る活動

日本国際ボランティアセンター(JVC)は、1980年のインドシナ難民の救援を機に設立され、現在は、アジア・アフリカ・中東・東日本大震災の被災地でも支援活動を行っている国際協力NGOです。

ラオスでは、いまでも人口の70%を超える人々が、農村の豊かな自然の中で暮らしています。しかし近年の急速な経済成長優先政策の下、ダムや鉱山開発、バラゴムノキやユーカリなどのプランテーションの設置がすさまじい勢いで進められ、村人の土地が何の補償もなく接収されたり、農業や廃棄物の投棄などで環境

が破壊され、そのくらしが立ち行かなくなる例が頻発しています。JVCは、住民や行政担当者に対する法律研修を行って、村人の農地や森林を使う権利について啓発活動を行っています。また、村の土地利用図の整備などを支援することで、村人の農地や、日々のくらしで利用している森や河川の範囲について明らかにし、その利用や処分について主体的に関わることができ、安心して暮らしを営めるように支援しています。